

### 只見ユネスコエコパークがめざすもの③

#### ―只見の自然環境を守る(2)―

前号に続いて、只見ユネスコエコパークにおける自然環境や生物多様性の保護・保全に関する取り組みをご紹介します。

#### 「只見町の野生動植物を保護する条例」の制定

只見町の総面積のうち、約六五%を国有林が占めています。それらは越後三山只見国定公園や奥会津森林生態系保護地域、そして会津山地緑の回廊などが指定・設定されていて、自然環境や生物多様性を保護・保全するための法的な整備がなされています。しかし、それ以外の地域については必ずしも法的な規制が十分に整備されてはいませんでした。他方、二〇二五年には新種のタダミハコネサンショウウオが発見され、町内における希少生物の保護・保全を図る必要性が高まりました。さらに、只見町では身近に自生しているものの、よその地域では容易に見ることができ

ないフクジュソウやカタクリなどの山野草が、一部の心ない人によって盗掘されることがたびたびありました。また、夜間のライトトラップによる昆虫採集者が増え、乱獲が心配されるようになってきました。町民からは、そのような問題に対応できる条件整備が求められていました。そこで、二〇二六年六月、「只見町の野生動植物を保護する条例」が制定されたのです。この条例は、地域住民の従来の生活を損なうことのないようにして、きびしい罰則規定は設けていません。地域住

民が地元の野生動植物を守りながら地域の持続可能な発展を図るという理念条例となつています。ただし、町の野生動植物をより積極的に守るため、町がとくに保護・保全すべき野生動植物を「町指定貴重野生動植物」として指定できるほか、ライトトラップなどで大量に昆虫を採集する行為は禁止されることになっています。

#### 「ただみ・観察の森」の整備

只見町には、奥山のみならず集落周辺でも、地域を特徴づけるブナ林をはじめとする自然環



▲六十里越(国道252号線)に設置した条例を周知する横断幕



▲梁取学びの森



▲肘折のユビソヤナギ林



▲下福井水林のブナ林

境がよく残されています。こうした自然環境を身近に触れ、理解してもらおうとともに、その保護・保全を図るため町内各所に「ただみ・観察の森」を整備しています。すでにオープンしている観察の森は、つぎの七か所です。  
① 梁取学びの森：梁取森戸川の源流部に位置し、かつて薪炭材生産のために伐採された後、再生したブナの二次林です。② ③ ユビソヤナギ観察の森：国内最大規模の自生地となっている希少樹種ユビソヤナギを観察できる森です。杉沢と肘折にあります。  
④ 下福井水林のブナ林：下福井の水林(水源林)として守られてきたブナの天然林です。⑤ 樋戸のブナ林：ブナの天然林が伐採された後、ブナやナラ類が再生し、その後シイタケの原木用にナ

ラ類が抜き切りされてブナの純林となったブナ二次林です。⑥ 黒沢のコナラあがりこ林：薪材生産を目的に、雪上伐採と萌芽再生を繰り返した結果、あがりこ型樹形となったコナラの巨木の森です。⑦ 蒲生あがりこの森：蒲生の真奈川沿いに、薪材生産とかじご焼きの影響により成立したあがりこ型樹形のブナの森です。  
いずれも只見町の自然環境を特徴づけるものであり、人々の暮らしとの関わりを観察できる貴重な森でもあります。これらは、地元集落の方々のご協力によって整備されたものです。観察の森は、ただみブナと川のミュージアムにおいてブナ林の成り立ちなどの自然環境を学習したのち観察に入るようになっています。